

平成29年度 南中学校 校内研究全体構想図

【南中学校の教育目標】

真心をもって生きる かしく うるわしく たくましく

【前回研究を通して学んだこと】

前回研究テーマ「学び合い、わかる・できる授業の創造」

- 課題を明確にすることによって、生徒が本時の見通しをもつことができた。
- 個人追究の時間の確保したうえで、ペアで仲間同士の交流の場を設定できた。
- 終末に、ペアによる言語活動（「説明」）を位置付けることで学びを実感させることができた。
- 一人では（仲間と力を合わせないと）できない作業を意図的に組むことができた。
- ★教師の指示や説明をスリム化し、生徒同士の学び合いの時間を充実させていく必要がある。
- ★生徒同士の交流時には、それぞれの着目点の違いに気付かせ、交流するよさも実感させたい。また、交流の目的をはっきりもち、主体的な学びにつなげていきたい。

【生徒の実態】

- 82%の生徒が主体的・能動的に学習を進めていると自覚している。
- 授業の導入部でこれから何をやるのか89%の生徒がよく分かっている。
- 90%の生徒が仲間と関わり合いながら学習をしていると意識している。
- 授業の終わりに、何が分かるようになったかを振り返ることができる生徒や、授業で学んだことをさらに自分で調べたり、生活に結びつけたることができる生徒が50%台に留まっている。

研究主題

生徒一人一人が主体的・対話的に学び、確かな学力を身に付ける学習指導の在り方
～学びの活用を位置付けることで主体的・対話的で深い学びを促す授業の創造を通して～

【主題設定の理由】

昨年度までの研究では、「学び合い、わかる・できる授業の創造」をテーマとし、研究を進めてきた。授業では、課題づくりに焦点が当てられ、矛盾や疑問を感じさせる事象提示が行われた。また、学び合いにも焦点が当てられ、生徒同士の交流の時間が意図的に位置付けられ、仲間の意見と比較しながら自分の意見を述べていく発言が増えてきた。

今年度は、昨年度までの研究成果を土台とし、主体的・対話的で深い学びに焦点を当てた研究を行っていく。その中でも、「学びの活用」を研究の中心として捉え、教師の役割、働きかけを考えていきたい。

【研究仮説】

仲間とかかわり合って共に学び合う集団づくりを大切にしながら、授業で身に付けた基礎的・基本的な学びを活用する課題を設定することで、生徒が自ら学びを活用して解決しようとしたり、仲間とかかわり合って解決しようとしたりすることができる。また、授業の終末において自らの学びを振り返る活動を位置付ければ、学びを深めることができ、さらに主体的かつ協働的に学ぶことができる生徒の育成ができると考える。

【研究内容】

1. 学びを活用する時間を保証する工夫	2. 主体的・対話的な学びを促す課題（発問）の工夫	3. 自らの学びを深める活動の在り方
(1) 一単位時間の組み立て方の工夫による授業の効率化	(1) 主体的な学びが生まれる課題（発問）の工夫	(1) 対話的な活動を通して学びを深める工夫
(2) 学びを活用する時間を位置付けた指導計画の工夫・改善	(2) 対話的な学び合いを促す課題（発問）の工夫	(2) 学びの実感を促す終末の活動の工夫